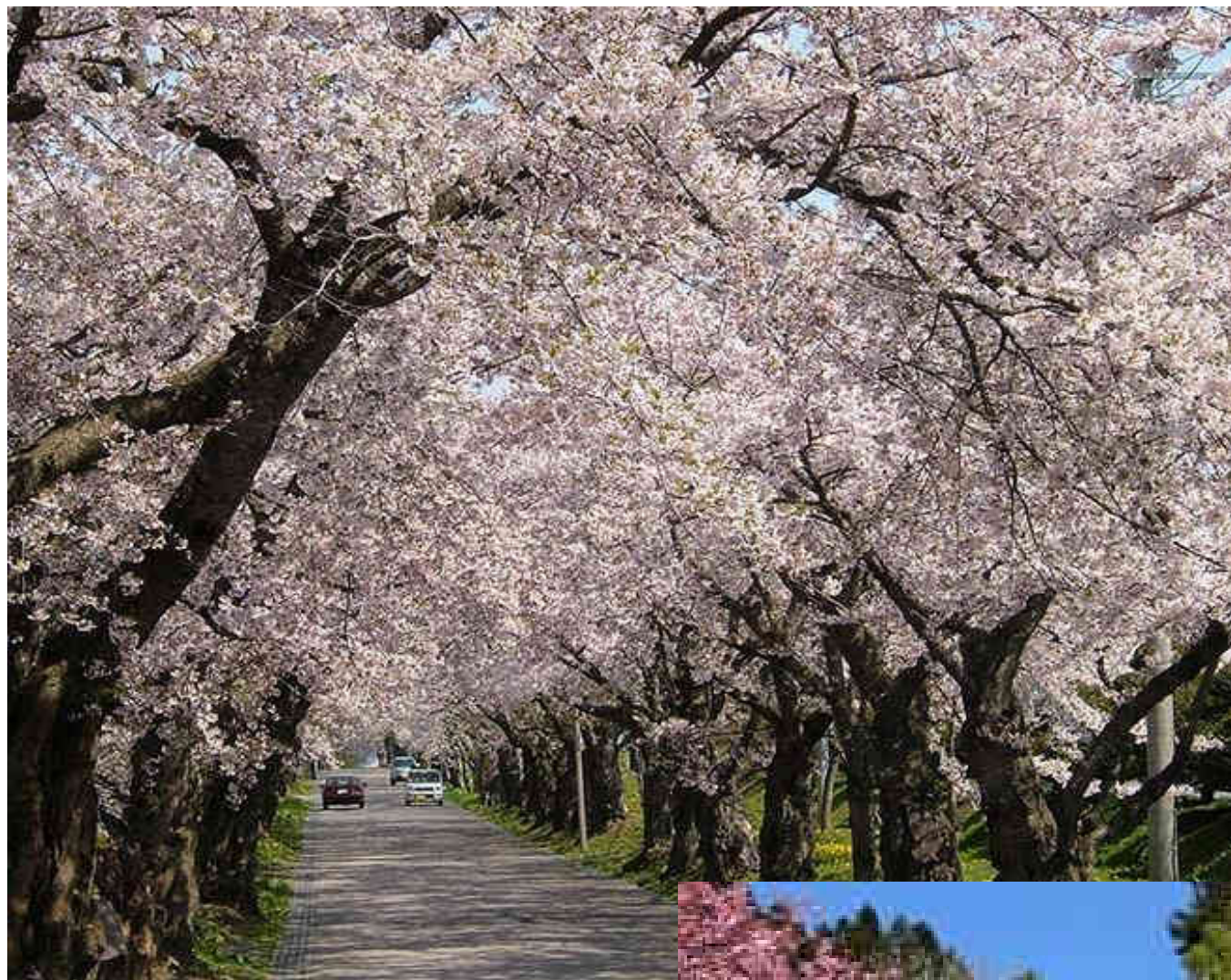


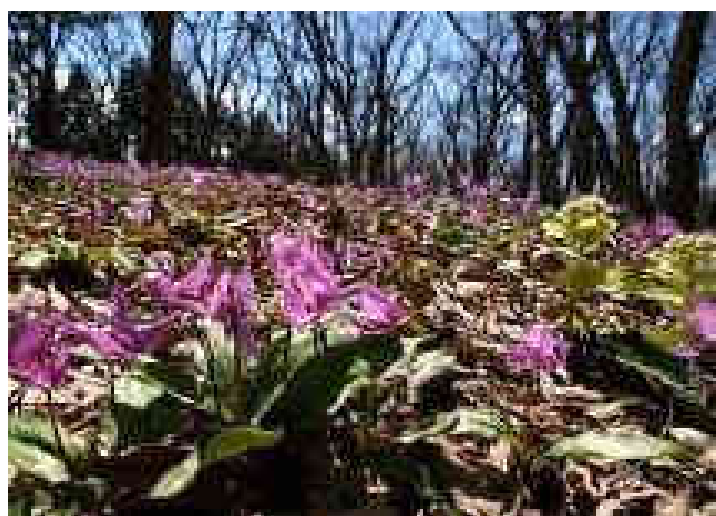
北 斗 第4号

2022年2月20日発行／東京北斗会 広報

とうきょうほくとかい 東京北斗会 とうきょうほくとかい 東京北斗会 とうきょうほくとかい



国指定史跡戸切地陣屋跡の桜並木



匠の森公園／可憐なカタクリ



トラピスト修道院の桜

ふるさと 北海道・北斗市の春

新年を迎えて

東京北斗会 会長 佐藤 則道



新年あけましておめでとうございます。会員の皆様にはつつがなく新しい春を迎えられた事と心からお慶び申し上げます。

さて、コロナウイルスとの戦いは、早や2年の月日が過ぎ、我々の生活が一変致しました。その中で昨夏はコロナウイルス禍と酷暑のなか東京五輪、パラリンピックが開催され、成功裏に終える事が出来たれしもが胸を撫で下ろしている事と思います。

東京北斗会も第28期に入りました。この二年間は自粛のみで、会員の皆様と顔を会わせることもできずに今日に至っております。従いまして、昨年は会員の皆様にご負担いただいている年会費はナシとしました。その中でも幹事会はテレワークを入れて行ってきました。

ふるさと会は全国的に高齢化が進み先細り感は否めませんが、昨年はお医者さん、大手企業の方等々入会者も途絶える事無く続いており安堵しております。

又、昨年秋には北斗市とテレワークによる情報交換会を開催することが出来ました。池田市長はじめ担当部課長さんと大変有意義な意見交換を行い、なかでも池田市長より、明るいニュースが沢山ありました。「北斗市商工会の宮崎会長が北海道連合会の会長に就任されたこと」宮崎会長は東京北斗会の総会に毎年出席され、ご指導をいただいております。また、「ゴルフでエイジシュートを達成されたこと」、「商工会筆頭理事の石崎幸男氏（石崎公益社）もエイジシュートを達成されたとのこと」。石崎氏とは同級生で長き親友です。

北斗市は皆さんご存知のとおりスポーツ、そして音楽が大変盛んで小中学生の皆さんも全国レベルで沢山の賞を頂いております。将来の北斗市を担って行く若者達を今から楽しみにして居ります。

本年の東京北斗会の行事に付きましても、引き続き様子を見ることとなりますが、幹事会、北斗市とのテレワークによる情報交換会、昨年から行って来ました東京から北斗市までのウォーキングを、今年は北海道一周ウォーキング（外山事務局担当）等々を企画します。

又、少し早めですが創立30周年に向けて、記念ふるさと訪問旅行等の提案もしたいと考えています。

本年も会員の皆様と一同に会する機会は難しいと思われませんが、会員、幹事の協力のもと共に歩んで行きたいと思っております。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

ここにきてコロナウイルスオミクロン株が世界的に猛威を振るい始め、専門家からは第6波到来との報道です。幸い重症化率が少ないとの事で、早く良い飲み薬が出来てインフルエンザの様になる事を祈るばかりです。

最後になりますが、池田市長様始め北斗市役所の皆様、中井市議会議長様、宮崎商工会会長様、金澤観光協会会長様、いつも会の運営にご協力ご支援を賜り厚くお礼申し上げます。また、本誌広告にご賛同賜りました皆様にも、この誌面をお借りして厚くお礼申し上げます。



2期目の市政運営にあたって

北斗市長 池田 達 雄



寒さが厳しき折、東京北斗会の皆様におかれましては、ますますご健勝のことと存じ上げます。

また、日ごろから市政各般にわたり深いご理解と温かなご支援を賜り、厚くお礼を申し上げます。

私は、去る1月に行われた北斗市長選挙におきまして再選を果たし、引き続き2期目の市政を担わせていただくこととなりました。改めて、市長の職責と使命の重さに、身の引き締まる思いでございます。

1期目を振り返りますと、就任1年目に胆振東部地震に起因して道内全域が停電となる「ブラックアウト」が発生し、就任3年目から4年目には、新型コロナウイルスの感染拡大が続くなど、当初予期せぬ困難な状況に直面してきましたが、市民の皆様、市議会、貴会をはじめとした関係各位のご理解とご協力により、お約束した公約は、ほぼ全ての事業を実施、予算化することができました。新たな4年間につきましても、本市のさらなる発展に向け、誠心誠意、全力で取り組んでまいり所存でございます。

さて、先程も申し上げました新型コロナウイルス感染症は、現在、新たな変異株であるオミクロン株の市中感染が全国各地で確認され、北海道をはじめとした感染者数が急増している地域では「まん延防止等重点措置」の適用が決定されるなど、依然として厳しい状況が続いています。

本年は、一日も早い感染収束を願うばかりですが、その鍵となるワクチンの接種は、昨年末に国から3回目の接種方針が示されました。本市では、市内医療機関の全面協力のもと、万全の体制を整え、まずは高齢者の方から段階的に接種を進めているところでございます。

また、疲弊した市民生活・経済の立て直しのため、市では、「新しい生活様式」のもと感染予防対策を徹底するとともに、これまで19弾にわたる経済対策等を講じてまいりました。今後、刻々と変わる状況に対応して、スピード感をもって対策を講じていくことで、感染対策との両立を図りながら本格的な経済活動の再開に繋げていきたいと考えております。

そのほかにも、本来、最優先に取り組むべき少子高齢化及び人口減少問題への取り組みを加速させることも必要となります。昨年発表された令和2年国勢調査の結果では、本市の人口が44,302人となり、5年前の前回調査と比べて2,088人減少しています。人口減少は全国の自治体が抱える最大の課題であり、市といたしましても、全国的に高い水準の子育て支援策の更なる強化や、移住・定住施策を促進することで、人口減少に負けないまちづくりを進めてまいります。

さらに、北海道新幹線効果拡大への取り組み、防災体制の整備、社会保障や教育環境の充実など、本市が抱える行政課題は多岐にわたっていますので、引き続き、関係各位の力強いご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

最後になりますが、東京北斗会のますますのご発展と会員皆様方のご健勝をお祈りいたしまして、私からのごあいさつといたします。



ご無沙汰しております

北斗市商工会 会長 宮崎 高志



齢を重ね時の経つ速さを実感しているところでございます。

東京北斗会の皆様にはたいへんご無沙汰をしております。

毎年、総会でお会いできることを楽しみにしておりましたが、このコロナ禍にあつて2年続けて叶いませんでした。

1年延期で開催された東京オリンピックは、緊急事態宣言下にあつて、世界の注目を集めたスポーツの祭典となりましたが、ほとんどの会場が無観客で行われるなど、極めて異例な状況で開催されました。

感染拡大により、東京都だけでも昨年は3回の緊急事態宣言が発令され、皆様におかれましては、あっという間に過ぎ去った1年であったのではないかと感じております。

さて、最近よく耳にするSDGs（持続可能な開発目標）、その考え方を日に日に痛感しております。持続可能な社会を実現させるため、経済・社会・環境、これらを調和させるための新たな行動計画というもので、人類、地球にとって極めて重要なテーマであります。

しかし、新型コロナウイルスの影響が明らかにしたのは、これまで構築してきた社会がいかに持続「不可能」だったのではないかと、ということです。

緊急事態宣言であらゆる経済活動が大きな制約を受けました。飲食店に対する休業や時短要請、大型イベントの中止や規模の縮小、人流を抑制するための行動制限、グローバルなサプライチェーンは停止し、製品素材が入ってこないという事態も引き起こしました。

また、気候変動の影響も現実化し、自然災害が頻発していることなどを考えると、なおのこと、前例踏襲の意識を変え、打ち寄せる厳しい波を乗り越え、未来を切り拓いていかなければならないと、強く感ずるところでございます。

皆様のふるさと「北斗」の近況についてですが、政府の活動自粛要請を機に社会経済活動が制約され、外出自粛による消費マインドの低下、イベント中止による集客減など、特に、飲食業、宿泊業、観光関連事業を中心とするサービス業は大きな打撃を受けました。

この間、北斗市では、事業者支援に繋げる施策として「ほくと地域応援券事業」（全市民1人当たり5,000円分の応援券を無料配布、2年間で3回実施、1回目は3,000円）や、感染対策用の設備機器導入や家賃に対する補助、さらには、国や北海道の支援制度に対する上乘せ助成など、北斗市独自の様々な支援が実施されました。

これらの支援は、事業者のみならず、市民への安心材料になったことは間違いありません。ちなみに、応援券事業は27年度にわたり総額6億円の巨費が投じられました。

また、商工会においても、商業団体や会員企業の販路開拓・拡大に繋げる助成、LINEを活用したクーポン助成、国の持続化補助金に対する自己負担の一部助成を行ったほか、会員、非会員を問わず、経営相談や融資あっせん、各制度に対する関係行政機関への申請事務の支援を行いました。

このように、支援体制の強化を図ったことで、皮肉なものですが、新型コロナウイルスで商工会の存在が認知され、減少傾向にあった会員の増加に繋がったという思いは否めませんが、これからも事業者に寄り添った活動を展開して参りたいと考えております。

私事になりますが、令和3年度北海道商工会連合会通常総会において、新会長を仰せつかり、その重責に身の引き締まる思いをしているところでございます。

東京北斗会の皆様には、引き続き、北斗市の強力な応援団としてご活躍いただき、併せて、当商工会に対しまして、今後ともご指導、ご鞭撻賜りますようお願い申し上げます。

結びに、東京北斗会の益々のご発展と会員皆様のご健勝をご祈念申し上げまして、ごあいさつといたします。

平穏な1年となりますように

一般社団法人 北斗市観光協会
会長 金澤 賢一



東京北斗会の皆さまには、健やかに新春をお迎えのことと、お慶び申し上げます。会員の皆さまにおかれましては、永きにわたり北斗市発展のためにご尽力いただいておりますことに敬意を表します。とりわけ昨年12月には東京都日比谷で開催された「北斗市観光プロモーション活動&特産品販売会」がありましたが、東京北斗会の皆さまには多大なるご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

私におきましては、昨年5月の定時総会において理事に再任され、第2期目となる北斗市観光協会長を務めさせていただいておりますところでございます。つきましては北斗市の観光産業の発展と地域振興のため全力を尽くし、皆さまの大切なふるさとの良さを伝えていく心構えでおりますのでよろしくお願い申し上げます。

さて、昨年中は北海道でも新型コロナウイルスの影響による度重なる緊急事態宣言等が発令されました。北斗市においても観光客の出足が鈍り、飲食店や土産店などが時短営業を行い、一昨年に引き続き各種観光行事の中止や縮小を余儀なくされました。しかし、この間でも当協会の主要イベントである「北斗桜回廊」「北斗紅葉回廊」は感染対策の協力をお願いしながら無事に終えることができました。また、新函館北斗駅前の賑わい創出イベントにおきましても出店業者や関係者の皆様の協力もあり、安全に且つ盛況に終えることができました。1日も早い収束と、平穏な1年となるよう願うばかりです。

当協会が運営しているアンテナショップほっとマルシェおがーるにおいては、昨年10月に北斗市観光交流センター本館から別館「ほっくる」内へ移転し、リニューアルオープンの際には、鈴木北海道知事が来訪し、思い出に残るスタートを切ったところです。また、ふるさと納税に対するお礼品登録店として受注を行い、ふるさと納税向上に貢献しているところです。これからも充実した販売品や皆さまに喜ばれるような施設運営を目指してまいります。

この2年間で私たちの生活スタイルが変化し、観光スタイルも大きく様変わりしました。この新たな状況の中で当協会も一丸となり、また北斗に来たいと思えるような運営を心掛けていく所存です。

今後とも東京北斗会の皆さまのご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げますとともに、東京北斗会のますますのご発展と会員皆さまのご健勝を祈念いたしまして、挨拶とさせていただきます。



一般社団法人

北斗市観光協会

会長 金澤 賢一
副会長 佐藤 敏彦 他役員一同
住所: 北斗市市渡1-1-7
TEL : 0138-77-5011
FAX : 0138-77-5012
<http://hokutoinfo.com>

こ線橋擁壁の壁画再生活動

北海道上磯高等学校長 江 尻 巧

全校生徒49名の上磯高校ではありますが、地域の方から大切な高校とさせていただけるよう、生徒・教職員一丸となって教育活動に取り組んでいます。ここ最近の一番の話題は、本校側にあるこ線橋擁壁の壁画再生活動です。新聞にも取り上げられたので、道南の方には知られた活動と思います。20数年前の上高生によって描かれた壁画が色あせていたこともあり、近隣の方に元気を出してもらうために取り組みました。併設する北斗高等支援学校や上磯小中学校の児童生徒にも協力してもらい、池田工業さんには壁面の下地処理をボランティアで行ってもらうなど、市教委や同窓会を始め地域の方から絶大な支援をいただき、今年度の活動が今月終了しました。地域の方から今年度だけの活動は残念との声をいただきましたので、来年度も継続する予定です。現在の状況は写真のとおりですが、来年度はもう少しパワーアップしますので、楽しみにしてください。



北斗市の函館水産高等学校の様子

北海道函館水産高等学校長 亀山喜明

北斗市七重浜にある本校は、昭和10年に開校して以来、現在は「海洋技術科」「水産食品科」「品質管理流通科」「機関工学科」及び「専攻科機関科」を有し、地域はもとより、本道、我が国の基幹産業である水産業を支えるべく漁業後継者や水産関連産業技術者の育成に努めています。

以前より海洋技術科及び機関工学科の生徒が、2年次に47日間に及ぶ乗船実習の中でマグロ延縄実習を行い、マグロ類を水揚げしています。水揚げされたマグロ類は、北斗市の生協などで、本校水産食品科の生徒によって加工された「まぐろオイル漬缶詰」とともに販売され、販売当日は列ができるほど盛況です。今年度の乗船実習は令和4年1月25日から3月12日までです。



地域の活性化に貢献したいと、水産食品科の生徒が道南いさりび鉄道と連携した「缶詰列車」の運行に一役かうほか、茂辺地さけまつりや木古内産業まつりにて「缶詰」や「さけとばチップス」を販売しています。

また、最近では函館でもぶりの漁獲量が増え、その活用が課題となっている中、「ぶりオイル漬缶詰」や「ぶりマヨネーズ缶詰」などを開発し、地域での配付や販売により、ぶりの消費拡大に貢献しようとしています。

現在は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、活動が制限されていますが、生徒はそれに負けないばかりか、これをチャンスとばかりに活躍しています。

最後に、本校のホームページでは、生徒の活動を日々更新していますので、ぜひご覧ください。また、11月からは北斗市へのふるさと納税の返礼品として、本校で製造した「缶詰」も提供しています。



農業生産工程管理「GAP」認証の取り組み

北海道大野農業高等学校長 野村博之

北斗市は、北海道水田発祥の地であり、「ふっくりんこ」誕生の地です。また、近郊ではリンゴやブドウなどの果樹栽培が盛んです。このような地域にある本校では、平成30年度コメでJGAP、令和元年度果樹・野菜でASIAGAPの認証を取得しました。

GAP認証の取得のきっかけは、農業のグローバル化、農産物の輸出、消費者への安全安心な農産物の提供が国際基準で求められているからです。GAP認証農場で作られた生産物は、消費者に安全を約束する生産物としてお届けする使命があります。

認証取得では、今までの生産工程を見直し、改善していくことになります。生徒も検査の頃になると、個々の農作業について、作業の理由や意味、留意点などを自分で考えることができ、成長を自ら実感できるようになります。

今後は、このGAPを地域に広めていくことが重要です。生産者以外に、小売・流通業者、消費者にもGAPについて理解してもらえ活動を展開していきます。



北海道北斗高等支援学校の紹介

北海道北斗高等支援学校長 吉野隆宏

本校は、知的障がいのある生徒を対象とした、職業学科を設置している高等支援学校です。北海道上磯高等学校に併設され、共に学び、共に成長する教育活動を推進しています。

「環境・流通サポート科」では、ビルクリーニング作業等の資機材の使用方法や作業工程等についての知識や技能を育成するとともに、印刷・製本等の事務機器や用具、コンピュータ等の取扱いや、商品の管理・梱包・発送等に関する知識や技能を育成しています。「福祉サービス科」では、身体介助や家事援助、接客応対などの基礎的な知識や技能を育成するとともに、居宅介護従事者の業務内容等を学び、資格取得につながる専門的な知識や技能を育成しています。

「北斗市で学び、北斗市から道南地域へ巣立ち、道南で働き、道南で暮らす人間を育てる」ことを基本理念とし、学校と地域、企業両方で繰り返し実習を行うデュアルシステムを構築し、「地域で働きながら学び、学びながら働く」教育を実践しています。



【環境・流通サポート科】



【福祉サービス科】

グランポレール北海道北斗ヴィンヤードについて

サッポロビール（株）は、良質な原料ぶどうの確保と、日本ワイン「グランポレール」のさらなるブランド力向上のため、2018年6月、三ツ石地区に「グランポレール北海道北斗ヴィンヤード」を開園しました。

グランポレール北海道北斗ヴィンヤードは、25.4haに及ぶ広大な土地を2018年から整地し、2019年に第一期の苗の植え付けを開始、2021年までに約9haの農地に18000本の苗木の植え付けを行いました。なお、本年10月に最初の収穫を迎え、シャルドネとメルローからそれぞれ数百kgを試験醸造用として収穫をしました。数年後には、ファーストヴィンテージとして、収穫されたぶどうから醸造したワインを発売することを目指しています。

私たちがこの土地にグランポレール専用のヴィンヤードを開園した理由は、降雨量・土壌などの諸条件が高級ワイン用ぶどうの生育に最適であったことはもちろん、栽培作業の効率化が可能な広大な土地であったこと、栽培の担い手となる労働力の確保が比較的容易であったことが挙げられます。また、サッポロビールの創業の地として特別な縁がある北海道であること、中でも北斗市の全面的なバックアップを得られたことも理由の一つです。

ワインはぶどう産地の風土を映し出すと言われるほど、どんな土地のどのような環境で育ったかで、その味わいに違いが出ます。「グランポレール北海道北斗ヴィンヤード」でも、メルローやシャルドネなどの品種を中心に栽培し、同一品種による北海道と長野の自社ヴィンヤードの違いを表現することや、今まで自社ヴィンヤードでは栽培していない新たな品種にも挑戦することで、日本ワインの可能性を広げていきたいと考えています。

グランポレール北海道北斗ヴィンヤードの開園により、当社の自社畑の栽培面積は、既存の安曇野池田ヴィンヤード（9ha）、長野古里ぶどう園（3ha）と併せ、合計21haになります。今後ますます伸長する日本ワインの需要に対応し、グランポレールの販売量を引き上げていきます。

当社は、これからも新たなチャレンジをしながら、より多くのお客様に日本ワインを楽しんでいただけるような取り組みをしていくとともに、世界に誇れるワインづくりをしていきます。



令和元年開催 グランポレール北海道北斗ヴィンヤード植樹式



令和元年開催 石別中学校の生徒による苗木の植え付け体験



令和3年10月に行われた
初収穫と収穫時のぶどうの房



ふるさとの行事



北斗市観光協会から送っていただきました



鈴木北海道知事訪問 (R3. 10. 22)



ずーしーモニュメント除幕式 (R3. 12. 1)



令和3年度フォトコンテスト表彰式 (R3. 10. 3)



大農×函水チャレンジマルシェ (R3. 10. 22)



道南クラフトピアガーデン (R3. 7. 17)



きじひき高原桜植樹 (協会理事 R3. 11. 7)

ふるさとの行事



北斗市観光協会から送っていただきました



キッチンカーフェス (R3. 11. 6)



新函館北斗駅イルミネーション (R3. 12)



まち大ハロウィンイベント (R3. 10. 31)



まち大ハロウィンイベント (R3. 10. 31)



紅葉回廊フルート演奏 (R3. 11. 6)

行事—WEB懇親会



コロナ禍でも開催できそうな行事として、「WEB懇親会」を企画し、初回は4月29日に開催し、その後毎月開催しています。



ご自宅や出先など、どこからでも参加できます。
ご関心のある方は、事務局の外山までご連絡ください。
電子メールアドレス：yuksoto@gmail.com



行事—チャレンジ！ふるさと北斗までウォーキング

北海道新幹線 ルート、距離



1月から『チャレンジ！北海道一周ウォーキング』を始めました

コロナ禍でも開催できそうな第2弾の行事として、『チャレンジ！ふるさと北斗までウォーキング』を企画しました。これは東京駅から新函館北斗駅の距離 862.5 kmを、ウォーキングしようというものです。実際に東京駅から歩くのではなく、普段の生活の中で、家の中、買い物、通勤、散歩など、なんでも構いません。毎日歩いた距離を記録して行って、862.5 kmを達成しようというものです。コロナ禍の中、気分転換を兼ねて、ご家族・ご友人と一緒に、ぜひ参加してみませんか。



No.	氏名 (申込み順)	21.06	21.07	21.08	21.09	21.10	21.11	21.12	総距離 (km)	
1	詳細はHPを！	82.9	102.4	53.6	113.2	106.4	126.6	134.8	719.9	
2		54.4	56.1	36.4	59.0	72.5	98.1	73.0	449.5	
3		77.0	80.2	77.7	73.6	84.7	70.1	60.5	523.8	
4		124.7	74.1	91.7	71.6	100.0	159.0	121.8	621.1	
5		84.0	148.8	95.5	128.0	146.0	146.0	148.0	896.3	2021年12月で到着！
6		92.7	79.3	97.5	98.3	91.1	89.8	102.4	651.1	
7		65.4	70.8	79.9	87.2	85.9	81.2	85.6	556.0	
8		196.0	150.7	105.4	169.6	175.5	194.3	—	991.5	2021年11月で到着！
9		70.0	50.0	112.0	86.0	94.0	96.0	98.0	606.0	
10		157.0	191.0	197.0	177.0	201.4	216.0	—	1139.4	2021年10月で到着！

会員からの寄稿

江差線の車窓から記憶を辿る

東京北斗会 会員 加進 恭裕（東京都在住）

碧い海から突き出た函館山が見渡せる茂辺地あたりからの車窓が好きだ。この景色を眺めると私の原点、故郷はここにしっかりとあるのだといつも感じる。

しばらく進み左右にセメント工場群が見え始めると同時に、私の脳裏には幼少のころの記憶が駆け巡る。兄弟従妹たちと毎年のように訪れた夏のセメント祭り（名称は定かではないです）には、たくさんの夜店、大きな櫓の周りには幾重もの盆踊りの輪、とても賑やかだった。

北海道の夏は短い。七重浜では潜ったり昆布を採取したりしてひと時の夏を過ごすのがお決まりであった。10歳台半ばになると友人と遠出するようになる。八郎沼で怪奇伝説を確かめた後に、地元の牛乳を飲んだりして。あ〜っ、あの時の風の匂いがしてきた。

飯生町にあった老舗豆腐屋のすまき豆腐の味が忘れられない。特に煮込にするとその特色ある豆腐の旨さが際立つ。それは母そして亡き祖母の味でもある。今でもその豆腐屋さんは存在しているのでしょうか。

実は私、亀田村（後に函館と合併）の出身で江差線雨塚踏切付近に生家があった。よって上磯・大野はたまに出かける所であった。なぜなら両親ともに上磯市街の出身で、（母方の）祖父母が居たからだ。ファミリーヒストリー的に紹介すると父方の祖母は谷好、母方の祖母は大野出身と聞いており、遺伝子的には間違いなく北斗系道産子になる。今年のある日、公私ともにお世話になっている縁の方からお声をかけて頂き、この度入会する運びとなった。函館で環境高分子化学を学び、社会人になり北海道を離れていますが、ライフワークである水環境・食農関連でいつかは故郷に恩返しができるようけっばりたいと心に秘めています。若輩者ではありますが、北斗会の皆様とのご縁を賜る機会を得たことに感謝申し上げますとともに、末永くお付き合い頂きたく存じます。

列車は国道5号線と並走、海岸沿いの倉庫や工場が立ち並ぶエリアを抜けたので此れにて終着。

（2021年12月4日 寄稿）



東京パラリンピックのボランティア時

<創立38周年>総合不動産業 三蔵住建株式会社

取締役社長 佐藤 則道

[東京北斗会 会長]

[北斗市ふるさと親善大使]

東京都新宿区西新宿 7-16-14
ミクラ西新宿ビル4階

tel 03-3362-2121 ・ fax 03-3362-2051



<開業16年>技術・経営コンサルタント業

外山技術士事務所

所長 外山 幸雄

[東京北斗会事務局]

神奈川県茅ヶ崎市今宿580-9

tel 080-6570-3744

e-mail yuksoto@gmail.com

http://www.yuksoto.sakura.ne.jp/

会員からの寄稿

「五黄の寅」です

東京北斗会 会員

木幡 恒

東京北斗会会員の皆様におかれましては、コロナの影響でこの2年お会いできておりませんが、ご健勝の事とお慶び申し上げます。

昨年11月、我が親友である宮崎里志君（小中高の同級生、大学時代同居）から電話を頂き、広報への投稿依頼を受けました、木幡 恒（こばた ひさし）と申します。

私は、昭和33年上磯小へ入学し、42年上磯中学校を卒業しました。実家は久根別で母は3年前に亡くなりましたが、弟が実家を継いでいます。コロナ前は2～3回／年帰省しておりましたが、ここ2年ほどは残念ながら帰省できていません。

入会の経緯は、平成12年札幌に転勤になり（31年ぶりの北海道）同じ单身マンションに小松さんがおり、紹介を受け当時の札幌上磯会に入会、その後広島、大阪を経て平成28年東京に戻ったおり、宮崎君に誘われ再度東京北斗会に入会しました。当初はほぼすべての会合に参加していましたが、ここ3年多忙とコロナで不参加です。

私の生まれ育った久根別は、上磯町の東外れで、南に函館湾を望む砂浜、小高い丘、国道228号線（函館～上磯）を渡り、草原、湿地帯、住宅地、北に線路（上磯線）を超えて丘陵地帯が大野町まで続く、線路伝い（上磯線）に長広く延びた自然豊かで静かな地域でした。上磯町中心部までかなり離れており、その手前の上磯小学校でも徒歩で40～50分、中学校は1時間（自転車通学であったが）ほどでした。現在は一帯が埋め立て造成され、大住宅街に生まれ変わり、北斗市では七重浜に次いで人口の多い地区と思われます。また、小学校も実家から500メートル海側に新築（40年前頃）され、久根別小学校となっています。

定年後大阪（通算18年居住）から浦安に戻り高校、大学、社会人時代の仲間、友達との数々の会合（14会合）に参加、コロナ前の3年間充実した時間を過ごしましたがこの2年全て中止を余儀なくされ、残念至極です。

私の住む浦安（新浦安）は、西は旧江戸川を挟み東京都と接し、北は市川市、東、南は東京湾に臨む人口17万人、面積17km²、多彩でおしゃれな街です。このおしゃれな街並をウォーキング（三番瀬から東京湾の海辺）するのが私の日課で、健康維持、リフレッシュ、ストレス解消のため6年近く継続しています。当初は午前1.5～2時間ウォーキング、午後1～1.5時間サイクリングをしていましたが、昨年からはスマホのアプリ（歩数計）導入で、午後もウォーキングをしています。昨年は1年間で6,279千歩（17.2千歩／日）、4,395 km（12km／日）でした。

今年は【五黄の寅】年です。五黄土星生まれ（9星）と十二支の寅年が重なる年の事です。9年周期と12年周期で36年に1度だけ巡って来る年です。

私も1950年（昭和25年）生まれの五黄の寅です。最強の運勢を持っているとの事ですが良い意味に受け止めて自分のパワーに結びつけたいと考えています。

最後に東京北斗会の益々の発展と皆様のご健勝を心から祈念致します。



会員からの寄稿

令和3年を振り返って

東京北斗会 会員 浜分出身 細川 国勝

去年から今年にかけてコロナウイルスが流行し、第一波から第二波・第三波、7月以後の第五波はインド由来の変異ウイルス「デルタ株」が猛威を振るい、8月20日には過去最多の25,867人の新患者、さらに9月3日には重症者も2,223人まで増え、旅行など外出を控える要請が県知事から発令されました。そんな中、私は去年「海老名ゆめクラブ連合会」47団体の中の「中新田第1・第2長寿会」の会長を任命されました。春一泊二日・秋二泊三日の「旅行会」、1月と7月の「演芸大会」、10月の「運動会」等の行事が在るのですがコロナ禍で全て中止になりました。しかし私は家庭菜園をしており、3月～4月にかけて「男爵」「里芋」の種芋植え・「カブ」「大根」の種蒔き、5月は「トマト・キュウリ・オクラ・ナス・ピーマン・モロヘイヤ」の苗植え、11月は「玉ネギ」の苗植えをしています。又、野菜作りの合間に毎月1週間位は、長野県諏訪湖近くの別荘で朝夕温泉に浸かりながら余生を楽しんでおります。3月・4月にはフキノトウが取れるので天ぷらにして食べています。少し苦味がありますが美味しいです。5月・6月は筍、7月は梅を取り、梅酒・梅干しを作り、9月中旬頃からは栗が取れます。湯上がりの梅酒は美味しいですよ。

諏訪湖と言えば「信州諏訪大社」があります。諏訪湖を挟んで上社と下社に分かれ、上社は諏訪市の「本宮」と茅野市の「前宮」、下社は下諏訪町に「春宮」・「秋宮」と合計4つの社殿があり、七年に一度巡ってくる「寅」と「申」の年に行われる「御柱祭」と言う大きなお祭りです。上社「前宮」「本宮」の山出しは、斜度27度の急坂（木落とし坂）を下り落ち、雪解けで冷たい宮川を曳き渡る「川越し」と言い4月2日・3日・4日に行われる。下社「春宮」「秋宮」の山出しは、斜度35度の木落とし坂で引き綱を斧で切られた「御柱」が、一気に轟音を響かせ坂を突き進む横転の危険と背中合わせの山出しで、4月8日・9日・10日で行われる。令和4年は寅年です。

写真は、2019年で結婚50年を迎え、妻と二人で四国八十八ヶ所巡礼ツアーに参加したときのものです。一番札所霊山寺～八十八番大窪寺～高野山まで1,300Kmと言う道のりで、2月・3月それぞれ4泊、4月9泊、5月8泊、6月9泊、9月・10月・11月それぞれ5泊、12月6泊の合計55泊の旅でした。

(2021年12月25日 寄稿)



総合建設業

株式会社 金澤組

代表取締役 金澤 賢一

住所: 北斗市桜岱18-6

TEL : 0138-73-3635

FAX : 0138-73-7850

北海道新聞 日本経済新聞

有限会社 宮崎新聞販売所

代表取締役 宮崎 浩憲

住所: 北斗市飯生1-12-1

TEL : 0138-73-2228

FAX : 0138-73-1781

コロナ禍の近況報告

東京北斗会 会員 義朗出身 岩山 真一

1948年7月16日生まれ、義朗小学校最後の卒業生で、今年の7月で74歳になります。23歳の時に就職で東京都北区に住むようになり半世紀が経ちました。61歳で現役を引退してからは、会費だけ払っていた同窓会や東京北斗会に出るように努力しました。40年、50年経ってから10代を一緒に過ごした、それまで一度も会おうとしなかった旧友と再開できるとは考えてもみませんでした。長く生きていて良かったと思います。幹事さんたちには本当に感謝です。人生をもう少し楽しみたいので、みな様これからもよろしくお願いいたします。

私の近況報告です。2021年は都議会議員選挙と総選挙がありました。選挙ボランティアをやりました。そのせいもあってか、持病が悪化しそうだったため思い切って12月15日に鼠経ヘルニア、いわゆる脱腸を手術。今年は1月15日に仲良く付き合いきた痔とおさらばしました。長生きしたいという性根が丸見えで何かみっともないようですが、自分でできることをはやると決断し実行しました。

去年はまさかという経験もしました。私は3人兄弟の長男です。父は17年前に86歳、母は3年前に96歳で亡くなりました。姉、妹と相談した結果、上磯にある先祖代々の墓を仕舞にして東京に引き取ることにしました。お寺と相談し、お世話になった墓に別れを告げ、市役所に届を出して遺骨を移す証明書を貰い、郵便局の宅急便（遺骨は唯一郵便局が取り扱っているそうです）で北区の自宅に送ってもらいました。高尾山の近くにある元職場（労働組合）の共同墓地に遺骨を運び無事に納骨できました。もう少し先になりますが、両親と生まれてすぐに死んだ女の子と一緒に暮らすことになります。こんなことが起きるとは自分でもびっくりです。ただ、一緒に暮らすのは出来る限り先の方にもっていきたいものです。新型コロナに対するワクチンや飲み薬が普及し、また安心して再会できることを期待しています。



(2022年1月5日 寄稿)

東京北斗会

東京北斗会のホームページ

<http://yuksoto.sakura.ne.jp/TokyoHokutoKai.html>

[会費の予定](#)	[過去のできごと](#)	[会則](#)	[役員](#)	[入会申込み](#)	[北斗市のホームページ](#)		
[会報](#)	[広報](#)	[ニュース](#)	[写真](#)	[会員などのお店](#)	[会社](#)	[コラム](#)	[会員名簿](#)
[北斗市伊の会の紹介](#)	[チャレンジ](#)	[ふるさと北斗までウォーキング](#)	[記録](#)				
[インターネットからの会費納入](#)	[チャレンジ](#)	[北海道一周ウォーキング](#)					

きじひき高原 法蔵寺のしだれ桜 トラピスト修道院

「東京北斗会」は、東京都およびその近郊に住む北海道北斗市（旧上磯町と旧大野町）出身者および関係者による「ふるさと会」です。

会員からの寄稿

苗半作

東京北斗会 会員 矢澤 弥生（石別）

三年目のコロナ禍の新春、私は例年通りストーブリーグならぬストーブガーデニングの真っ最中で過ごしています。ガーデニングとは言っても、この五～六年は野菜作りにシフトしています。少量ですが、できた作物は近所のスーパーで販売しています。

市民アンケートに参加する機会があり、消費者が地場産野菜を求める場として最も需要があるのが、近所のスーパーマーケット内という結果がありました。私の野菜はまさにその場にぴったりな訳で、しかも嬉しいことに自分で値段をつけることが出来ます。とは言ってもその店での値段や何より私の競争相手である他の出展者とのつり合いが問題ではあります。私は冬野菜は別として、当日の早朝に収穫した物を開店前に出荷することを自分に課しているのですが結構評判がいいようなのです。

私は気に入った品種を作りたいので、カタログと首っ引きで品種を選びタネから育てています。ありきたりですが、一粒のタネが芽を出し育っていく様子、アレコレ工夫して上手に苗を作れた時は本当に嬉しいものです。

昔から「苗半作」といい苗が上手にできればしめたものです。

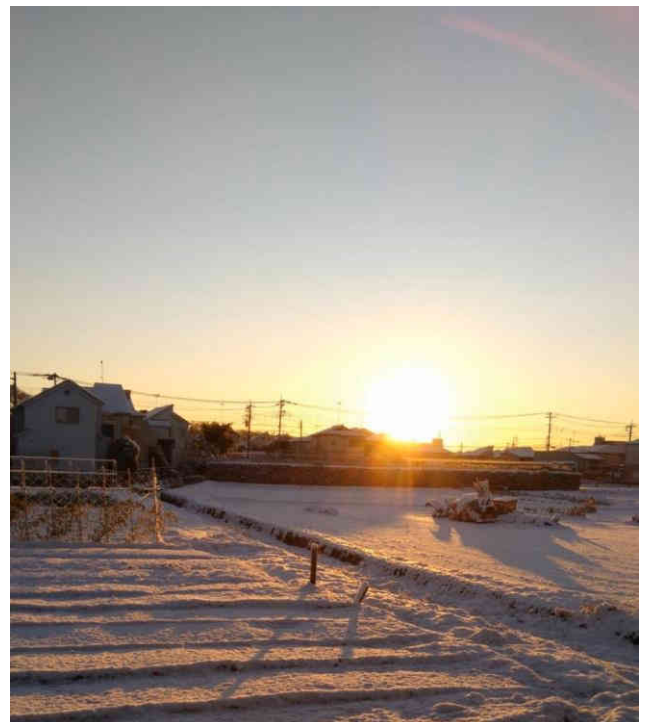
この時期に検討中なのは、ナス、トマト、胡瓜の夏野菜三点セット。特に今年は畑作物の工夫をして難しい筈のトマトの連作に挑みます。その品種も大玉は一種のみですが、ミニトマトは五種類ぐらいは作り「カラフルミックス」として売ります。他にナス科も三～四種、ウリは胡瓜の他に昔懐かしいまくわ瓜や大玉西瓜、西瓜は自分が食べたくてですが作ります。

それから国産は値が高い落花生、国産では貴重品のゴマも作っています。落花生は茹でて食べてもらう「生」が好評で今年はもう少し増産の予定です。そしてゴマは友人が大量に買ってくれるのですが、選別が大変で国産のものが市場に出ないので納得です。こうして私は安心安全な国産野菜を少しでも生産し、食糧自給率の向上に貢献していると自負して、自らを忙しくし雑草と戦ってこの夏も過ごす筈です。

アッ！ 趣味のガーデニングに手が廻らないー！！



弥生のガーデン



2022年1月、春を待つ野菜畑に虹が

北斗市と「なまらいいんでない会」

なまらいいんでない会 会長 真柄 秀明

2016年2月、北海道好きが集い北海道を応援したい衝動が抑えきれずに発足した「なまらいいんでない会」が、最初に応援したいと思いかかわった自治体が北斗市でした。

胡散臭いたかり軍団と誤解されがちな新興団体が多いにも関わらず、「応援したいという」気持ちに伝えてくださった乗りは、北海道初が多い歴史を持ち、伝統と自然を大切にしつつ新しい事に挑戦する北斗市の心意気ならではと云えるのではないのでしょうか。

私の出身は檜山北部のせたな町。函館で高校時代を過ごして上京し、就学就職を経て現役を引退し、「なまらいいんでない会」を立ち上げました。

直後に北海道を応援する体制を模索しながら函館を訪れ、故郷である「せたな町」へ向かうため厚沢部町を目指した際、これまでも目に触れたことはあつたのであろう「きじひき高原」の看板が気になりました。国道を少し行き過ぎましたが引き返し、看板につられて山を登り、メロディーラインを楽しみ頂上へたどり着きました。現在の休息施設が建設される前のことです。

頂上への途中の景観はもちろんですが、頂上に立った時の360°パノラマの感動は私の北海道愛の炎を鞆で吹くように燃え上がらせました。

以来、なまらいいんでない会HPのカバー写真には「きじひき高原」からの駒ヶ岳、大沼の眺望写真を使用し続けている程です。

しかし後日、知人や同期生等函館出身者に聞いてみても、皆さん「きじひき高原」を知りませんでした。当時の私だけではありません。北海道出身といっても北海道をわずかな点としてしか知らない人が多いという事に気づかされました。

一方、「きじひき高原」を知ったことで、北斗市についての興味が強く湧いてきました。全国的に有名なトラピスト修道院、上磯の太平洋セメント、北海道新幹線新函館北斗駅等以外に、シンガポール以外唯一あるマーライオン、峯朗牡蠣、水田発祥の地から命名された純米吟醸酒「北斗発祥」、日本の未来函館水産高校の存在等々、興味を持てば次々と情報が目に付くようになり、発見が多くなるものです。恐らく、自然、産業、人、歴史、これからの可能性等々ももっともっとたくさんの知るべきもの、見るべきものが北斗市にはあるのでしょう。

この経験が、交流会のみならず、勉強会の開催、応援認定制度の発足等のきっかけになっているのです。

「なまらいいんでない会」は2021年6月コロナ禍最中にもかかわらず、無謀にも北海道応援アンテナショップ「なまらもん」を浅草にオープンしました。

「なまらいいんでない会」の発足以来、世の中色々なことがありました。順調に定例会、勉強会が続く中で、胆振東部地震のブラックアウトに遭遇し、幻となった札幌での定例会、新型コロナによる活動自粛。

然しながら、「なまらもん」の運営と、各種会員情報の発信を今日まで続けてこられたのは、発足当時から定例会や日本ハムファイターズ鎌ヶ谷イベント、「なまらもん」での北斗発祥販売等数多くのバックアップを続けていただいた東京北斗会の皆様と池田市長はじめ北斗市の皆様のご支援のおかげです。

東京北斗会、北斗市は未来永劫魅力ある存在として北の空に輝き続けることと確信します。なまらいいんでない会も共に、輝く北海道応援の星として少しでも北海道の「役に立つ」存在となるべく努力してまいります。（了）



今後の北斗会運営についての私案

東京北斗会 副会長 池田 喜久雄

北斗会会員の皆様にはおかれましては、コロナ禍とはいえますますご清祥のこととお慶び申し上げます。私、行事関係を担当している茂辺地出身の池田と申します。

東京北斗会の行事については一昨年より、総会含め全て中止しております。平成7年東京上磯会として発足以来このような事態は初めてですが、コロナ禍であり止むを得ないところです。速やかなる終息を祈るばかりです。

そのような中で、今年の会報にてコロナ禍後を見据えた方策を4点あげましたので、その検証をいたします。



①現在会員は北斗市出身者及びその関係者としてますが、これを北斗市出身者及び北斗市に滞在した方や関係してなくとも関心ある方などに広げる案です。これについては昨年8月太平洋セメント上磯工場様訪問し、総務課長に要請したところ、社内報への掲載をいただきました。今後も継続して折衝をすすめていきます。但し会員を北斗市出身以外に幅広く間口を広げるには規約の改正が必要であり、現状それを書面決議するには無理がありますので、総会が開催された際に提案していきたいと考えます。

②マスクとの関係の強化に努めます。
コロナ禍により関係者と接触できず、継続課題です。

③北斗市役所との連携を更に強化します。
コロナ禍により、北斗市の関東でのイベントは中止しており、集客などはできない状態です。市長含めて市役所の方と幹事とのリモート会議を実施しました。イベント復活した際には協力を再開していきます。

④財政を豊かにしていきたいと考えます。
広報への広告収入などにより会の残高は多少なりとも増加しております。この誌面から広告いただいた法人、個人の方には厚く御礼申し上げます。

⑤会員相互の懇親を深めていきます。
これが会の運営のメインですので、その為にも今年の秋の総会は実施したいです。又総会までの間にコロナ禍状況を確認しながら懇親の場を検討し、決まり次第案内いたします。更に数年後には以前催した北斗市へのふるさと旅行も個人的には視野に入れてます。

以上ですが、今後の運営の私案としてこの5点を掲げていきます。

この2年間大きな逆風が吹きました、コロナ禍で在宅がすすみ、世の中の有様が過去と大きく変化するといわれています。しかし本当に人は在宅とリモートで満足するのでしょうか、人は人との関係性により心の安定が保たれるといわれています。コロナ禍の長期化により在宅を強いられるなかで、人との関係性を持ちたいとの欲求はマグマのように溜まっていると感じます。集まって何気なく他愛もない話をするという当たり前の日常がなくなった今日、その日常が戻った時の受け皿としての北斗会にすべく、この時期に広報活動をすすめていきます。人生100年時代、少子高齢化の世の中で、まさに高齢者を主な対象とするふるさと会は成長産業？ 当たらずとも遠からず、やり方次第と思っております。

昨年幹事会はリモートとリアルで同時開催し幹事各位でいろいろ議論しております。さらに北斗会を活性化していきたいと考えますので、何卒ご理解、ご協力のほどお願い申し上げます。

北斗会会員の皆様のますますのご活躍をお祈り申し上げます。（了）

役員からの寄稿

2年続きのコロナ禍の中で

東京北斗会 会計監査 簡 和弘（峩朗出身/さいたま市在住）

本年も何卒よろしくお願ひ致します。

コロナ禍により2年連続に亘り東京北斗会は各種行事及び総会・懇親会の中止が余儀なく皆様との楽しく過ごす交流の場を失われた事は誠に残念でなりません。長引く自粛生活の中、運動不足とストレス解消を兼ね家から4～5km範囲内をカミさんと散策中にJR浦和駅西口から徒歩5分のさくら通りで「浦和宿古本市」が開催されて居りました。

この古本市は1982年11月発足して39年になると言う関東唯一の青空定例開催市との事です。文庫本から専門書に至るまで古書のプロが誠実査定された本が数え切れない程並んで居りました。何気なく冷やかし半分で覗いて見ると文庫本「北海道だべさ!!」の4冊に出会い、北海道と言う活字と1冊/100円に釣られて購入しました。この1冊の中の1ページに「道産子度チェック」とあったので次の通り披露します。

1. 冷蔵庫にカツゲンかガラナが入っていないと何となく寂しい
2. 何でも定価で売るコンビニは嫌いだ
3. 赤飯には甘納豆でないと嫌だ
4. 道明寺じゃない桜餅は桜餅じゃない
5. 豚汁をトン汁と呼ぶのが許せない
6. 節分で投げるのは落花生に決まっている
7. 雪虫は触れるがゴキブリは見たこともない
8. 雪玉は作るときは素手である
9. 寿司ネタに茹でたエビがのっているのは納得できない
10. 「北の国から」は好きだが、それでもさだまさしさんより松山千春さんの方が好き
11. 「大雪山」をダイセツザンと呼ぶのは許せない
12. 雪道で転ぶ観光客を見ると、悪いと思いながら笑ってしまう
13. ジャガイモの味噌汁が好き
14. ゴミは投げ、手袋は履いてしまう
15. 葬式で撮った記念写真がある
16. 氷点下の場合、〇〇度を下回らず、〇〇度を超えると言う
17. ときどき“腹クソ”悪くなる
18. 米は磨いだあと“うるかす”
19. ファンヒーターでもストーブと呼んでしまう
20. 花見は五月だと思い込んでいる

私の住むさいたま市は昨年市政20年、私も埼玉県人となり40数年の歳月が流れ気が付けば故郷北海道を離れ半世紀以上が過ぎ忘れ掛けていた事が懐かしく思った次第です。

東京北斗会の皆さんはこの道産子度チェックはいくつ当て嵌まりましたでしょうか？

今年、総会・懇親会が開催されたならばこれらを酒の肴に楽しく一杯やりましょう！！

それでは皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。



役員からの寄稿

思い出

東京北斗会 会計 花木 瞳



新年を迎えて良き年月でありますようにと願い、身体の方は寒さを一段とを感じる次第です。四年ぶりに都会も雪が降り枯木にこんもりと綿帽子、故郷の晴れた日にキラキラ光る雪原、何もかも白で覆ってしまう美しい一面を恋しくもある。

近くの公園にて秋の深まる頃には木々達が冬支度、金木犀の残香があたりに漂う。

枯葉が舞う足元でカラカラと音を立てて坂道を…。小さい頃の思い出は、土曜日の昼下がりおばあちゃんの所へ、「よく来たね」と笑顔で迎えてくれる。夜には一緒の布団の中、翌日は同年齢の友と遊び、三時ぐらいには帰路に、バス賃がお菓子に変わる。まばらな家並み、暗くならないかと速足に小学校卒業まで続いた。

中学生からは、おばあちゃんの家より、母との別離。

母の手土産、引き出しの中に何といい匂いだろうか。うす黄色の産毛の生えたような手に収まる程の実、マルメと聞いていた。

半世紀以上もの間忘れていたその匂い、故郷の方々より会への頂きものでした。懐かしく両手で匂いを嗅ぐ、なんと嬉しく思ったことか…。

本年もコロナの収束を願い、年間行事ができます事を願っております。

コロナ禍でふり返ってみたら

東京北斗会 幹事 長澤 久子 (旧姓 高橋)



私のなかの上磯会（現北斗会）の思い出深い事柄はまず、初めて上磯会に出席した時の会場は品川駅前のホテルでした。少し緊張しながらでしたが、とても出席者が多く部屋も広くてごく近くのテーブルの方としかお話が出来ず、その時の郷内会長さん、小松幹事さんなどがテーブルまで来て下さって優しい笑顔で話しかけて下さり、とても楽しい時間でした。中でも一番印象的だったのは、茂辺地出身のメンバーは坂本さんを中心に大勢の皆さんとっても仲良しで、大変盛り上がり賑やかだった事、それが何だか羨ましかった事。

そして平成16年10月創立10周年記念行事としての“ふるさと訪問旅行”です。市役所あげての温かいおもてなしの大歓迎を受けて、その優しさに「ああ帰って来たんだ」と実感が心の中にジワッと染み込んできたのを覚えています。けれど帰りは思いもかけずの台風の影響により急きょ大スケジュール変更。皆さんそれぞれの方法を見つけてどうにかこうにか帰京したのも思い出として深いものです。あの時は大慌てしました。

それから平成28年6月新幹線開業記念としての“ふるさと訪問旅行”です。市の皆様が北斗駅までお出迎えにおみえで心のこもった歓迎を受け優しい心尽くしと湯の川温泉の暖かさに大感謝でした。ホッキご飯美味でした。

そういえば現在の最も取り組まなければならない課題があつて、北斗会会員に1人でも多く出席していただきたいという事なのです。参加されたなら解ると思いますが、楽しく懐かしさを共有出来て、思い出として友人、家族とは別物の何とも言えない楽しさを味わえる事に気がきます。慣例行事としての隅田川の観桜会、1泊又は東京駅発着の日帰りバス旅行での東京湾クルーズ、ホテルバイキング、スカイツリー見学等、それに総会後の食事会は北斗市よりお越しの市長はじめ議員、関係者の皆様と親しく歓談して、あっという間に時間が過ぎてしまいます。もちろん2次会も全員が出席しますのでその楽しさをご想像願います。健康で好奇心を持ち続ける生活を送ってゆけますよう、私も会員として皆様のお仲間に入れていただいで楽しい思い出を沢山作りたいのです。どうぞ宜しくお願い致しますね。

役員からの寄稿

東京北斗会 幹事 星川 傑

まだまだ、厳しい寒さが続くこの頃ですが皆様におかれましては、お変わりなくお過ごしでしょうか。

早いもので、東京北斗会に入会し幹事を拝命し2年が経過しました。昨年は、コロナ禍で各行事が中止となり皆様との交流ができなく残念な1年でした。

さて、私事ですが昨年1年を振り返ってみたいと思います。

昨年は、北斗市に住む父が1月、母が2月に突然他界し大変な年明けとなりました。

両親は昭和町で理容業を先代から受け継ぎ、約100年続いた歴史ある理容店で、2020年の12月頃まで80代と高齢ではありましたが2人で店を守っていました。

他界後、葬儀や役所関係、銀行関係等の手配等行いましたが、その過程で様々な出来事がありましたので記載したいと思います。

まずは、1月～5月に3度（延べ約2週間）帰省し改めて北海道の自然の厳しさを体感しました。特に年初の夜の気温は、マイナス13度と凍てつく寒さでしたが、空気の清冽さ、小雪、静寂の空間に包まれ心が洗われるようでした。

また、帰省中は函館在住の母の叔父の家にお世話になり、毎夜酒を酌み交わしながら、母の思い出話や、叔父の若かりし頃、毎夜函館大門で遊んでいたころの武勇伝を聞き大笑いしたことが懐かしく思い出されます。

また、理容協会の支部長様ともお会いし、父の昔話に花が咲き私の知らない父を知ることができました。

その他、40年ぶりにお会いした父の弟、親戚の方、また葬儀に参列して頂いた町内会の方々等、人との関わりの中で、両親を失った喪失感や悔悟の想いに必要以上落ち込むことがなく過ごすことができました。

普段、東京では決まった人（家族、会社関係等）と何気なく過ごしていますが、今でも、帰省した時を振り返ると、帰省を通して多くの方々との気持ちが通じ合った濃密な空間、時間、出来事が目の前に現れて懐かしいような夢のような感覚に包まれます。

今年2022年はまだ始まったばかりですが、振り返った時に「色々あったけど良い1年だったな」と思うような年になればと思います。

皆様方に置かれましても良い1年になるよう祈念すると共にまた、どこかでお会いすることができることを楽しみにしております。



石ざきホール 北 斗 石ざきホール 七重浜
創業100年 株式会社石崎公益社
代表取締役 石 崎 幸 男

住 所:北斗市飯生1-9-5
TEL :0138-73-3393
FAX :0138-73-8020
<http://www.coa-plan.net/hokusou/hakodate/ishizaki/>

北斗市商工会

会 長 宮崎 高志
副会長 渡辺 晃男 長川 勉

住 所:北斗市飯生3-4-1
TEL :0138-73-2408
FAX :0138-73-2474
<http://hokuto-sci.jp/>

旧大野町出身の大指揮者 上田 仁 について

東京北斗会 幹事 池田 均

私は1967年(昭和42年)に上磯小学校を卒業しました。当時の担任の先生の影響で音楽が大好きになり、中学校、高校時代は吹奏楽部に所属していました。大学ではオーケストラに所属し、社会人になってもアマチュアのオーケストラなどで音楽を楽しんでいました。また、プロのオーケストラを聴きに、よくコンサートに出かけました。

25年ほど前、東京交響楽団の演奏会に行ったとき、プログラムの団員名簿のページで永久名誉指揮者「上田仁」と書かれているのが目にとまりました。「仁」は私と同じく「ひとし」と読むのかどうか気になり調べたら、「まさし」と読み、旧大野町出身であることがわかり驚きました。その後、CDを集めたりしましたが、5年ほど前に、北斗市郷土資料館に「上田仁コーナー」があるというので行ってきました。そこには、生前に使っていた指揮棒や指揮者の使う楽譜があり、驚き、そして感動しました。

展示品の中に、1枚のCDがありました。それは、旧ソヴィエトの作曲家ショスタコーヴィチの交響曲第12番・日本初演のCD(1962年4月12日・日比谷公会堂・TOGE11115)で、なんと上田本人の肉声がインタビューとして残されていました。また、そのCDのブックレットによると、1948年から1958年にかけて、ショスタコーヴィチの交響曲を第7番から11番まで、ハチャトリヤンの交響曲やプロコフィエフの交響曲も初演していることなど、彼の業績がわかり、その偉大さに大変驚きました。

郷土資料館のパンフレット・上田仁の足跡から、「上田仁の生涯」を引用して掲載します。

1904年(明治37年)、医師上田春庭を父として大野村西上町(現大野小学校付近)で生まれた。(中略)1922年(大正11年)東洋音楽学校(現東京音楽大学)ピアノ科を卒業。1925年(大正14年)、山田耕筰が主宰する日本交響楽協会に入り、ファゴットを勉強した。翌年、新交響楽団(現NHK交響楽団)が創設されると同時に加わり、以来17年間首席ファゴット奏者を務めている。庶民的で親しみやすく、音楽仲間から「マーちゃん」と呼ばれていた。指揮法も学んでいた上田は、1942年(昭和17年)東宝映画のオーケストラに入り、東宝(東京)交響楽団の指揮者として頭角を現し、1964年(昭和39年)まで常任指揮者を務めた。(中略)1937年(昭和12年)には母校大野小学校の校歌を作曲している。函館にもたびたび演奏に訪れ、演奏指揮や益田キートンらと共演した。演奏の合間に大野へ足を運び、大野川や観音山を眺め懐かしんでいたという。

1966年(昭和41年)、大阪でピアノ指導中に急逝した。(享年62歳)

1996年(平成8年)、東京交響楽団は創立50周年に「永久名誉指揮者」の称号を上田に贈る。

明治、大正、昭和の初期、日本の西洋音楽は、西洋に追いつけ追い越せと躍起になっていた時代で、山田耕筰(1886~1965・トラピスト修道院で三木露風が「赤とんぼ」を作詞し、それに作曲・1927)、近衛秀麿(1898~1973)らと共に上田氏(1904~1966)が日本の音楽の発展に大きく寄与し功績を残しています。その功績を思い、これからも東京交響楽団を応援しコンサートを楽しみたいと思います。また、吹奏楽が盛んになった北斗市の「音楽のまち・ほくと」には、欠かせない人物だと痛感しました。

上田仁氏に興味がある方は、是非、帰省した際にでも郷土資料館に足を運んでください。

住所は 北斗市本町 1-1-1 北斗市総合分庁舎2階 電話番号は 0138-77-8811

上田仁氏のCDの多くは廃盤になっており、残念ながらなかなか手に入りませんが、私の住んでいる東京都荒川区の図書館には3枚ほどありました。参考までに。



故郷の想いで

東京北斗会 幹事 山田 道夫

毎年師走を迎える頃になると故郷の幼友達から海の幸、山の幸が届けられる。有難いことだ。早速お礼の連絡を入れると電話の向こうから「道夫さん、トラピストのライトアップが始まったよ。綺麗だよ。お出でよ。」と弾んだ声が聞こえてくる。うーん行きたいが、コロナが収まるまで残念だよ。と話し終える。

そうかあもうクリスマスが近いのかあと思うと同時に、60年前のトラピスト修道院の教会での光景が鮮明に脳裏に浮かんでくる。クリスマスの集会に信者でもない私も参加した。パイプオルガンの音色とともに讃美歌を聴き、温かいおしるこをご馳走になった。そして白銀に輝く帰りの雪道を「サク・サク」と雪の鳴く音をたて歩いたことが蘇ってくる。1920年から、詩人の三木露風が修道院の文学講師で数年間滞在し、童謡「赤とんぼ」や「野ばら」を作詞していることは周知のとおりである。



私は露風の詩歌「山鳩の声」に魅せられる。

梅雨晴れの／青き野に／鳥が鳴く／日暮れむとす／山鳩の声／幽かに／遥かに遠し

男爵イモの生みの親である川田龍吉男爵は修道院の麓、渡島当別にあった別荘で晩年を過ごしカトリックの洗礼を受けていたと聞いている。また、川田男爵資料館の管理人をしている同級生と会うのも帰省の楽しみのひとつである。

葛登支岬灯台にも思い出がある。昭和32年頃、灯台守の子息と同級生であった私は毎日のように灯台に通い遊んだ。真っ白な円柱の外壁、螺旋階段を上り分厚いレンズの前まで辿り着く。そして降りる、それを何度も繰り返し遊んだ。灯台下周辺の綺麗に刈り込まれていた芝生の緑が今も目に浮かぶ。北川君はいずこへと思ひめぐらすことがある。

南渡島の一角に丘の上高くそびえたつ〈石別小学校校歌〉小学校に隣接した旧日本電信電話公社中継所・無線所のことも記したい。ベージュ色のコンクリートの建物と高い鉄塔が数本聳え立っていた。昭和30年代まで本州と北海道を結ぶ唯一の通信基地として大勢の人達が働いて、職員住宅が建ち並んでいた。

小学校4年の遠足で丸山（482メートル）への登山も懐かしい思い出の一つである。ルルド洞くつわきを通りやっどのおもいで頂上に登り着いた時の達成感で歓声が上がった。空の青と海の青さにしばし見とれていた。下山途中、道に迷い泣き出した子もいたが、無事下山後の笑い話にもなった。

JRの前身、国鉄時代、今は廃線となってしまった江差・松前線で蒸気機関車が走っていたころである。茂辺地・渡島当別間を通っている比較的広い線路脇広場で数名とよく遊んだ。レールに耳を当て遠くから列車が近づいてくる微かな音を確認するスリルに満ちた危険な遊びであった。もちろん、大人に知れたら大変なことになる。内緒の内緒、子供たちの秘め事であった。洋画「禁じられた遊び」のワンシーンと重なる。朽ちかけた洋風館の建物、秦別荘敷地内にある池でのフナ釣りも楽しみの一つであった。

ゆったりと流れていた日々、懐かしく、あまりにも遠い昔の思い出、望郷の念がますます強くなるこの頃である。



丸山の背腹を抜けて

東京北斗会 事務局

龍崎 千遙

新青森駅からゆっくりと「はやぶさ」が動き出す。席は右の窓側。間もなく陸奥湾の水平線の左寄りにどっしり構えた島が浮かぶ。この島こそ三ツ石の丸山。島に見紛うのは水平線のいたずら。函館山より100mほど高い。水平線の右寄りにその見慣れた函館山が浮かぶが、小ぶり。丸山に出会うのも束の間、津軽の海沿いから青函トンネルに潜り、丸山の背腹を抜けて150km弱を疾走し、「はやぶさ」は意気揚々と新函館北斗駅に滑り込む。

車を借り、国道228号線に出て右折する。セメント工場は今日もなかなかの煙だ。矢不來からそれまでの平坦な地勢が一転、右に海崖が迫り、左はもっぱら海となる。茂辺地川を渡り、車が海に突っ込むかとも思われる葛登志灯台の足許をグイと巡ると、当別のなだらかな丘陵が現れる。

半世紀前、この海沿いルートはまだ工事中で山地を辿った。矢不來から崖をうねうね上り、暫く畑の間を走って再び崖を下った。茂辺地川を渡り、役場支所の先で踏切を超え、崖を横V字に上って再び畑の間を走り、今度は逆向きの横V字を下って当別川に出た。海沿いは開通後も雨でしばしば崖が崩れた。落ち着いたのはここ30年くらいか。開建の苦労が偲ばれる。

漁組や駐在所を過ぎて直ぐ大当別川。川向こうに石切り場、その上にトラピスト大修道院、その背後に丸山。やはりどっしり構えている。石切りが進めば修道院の足許が崩れ落ちるのではと子供心に心配したものだ。

小学校への上り口、渡島当別駅、修道院行き分岐口、神社の上り口を次々に過ぎ、三ツ石の集落を後にする。磯を眺め海にせり出すカーブを巡り、国道から右折して崖を斜めに上り切ると、いきなり踏切だ。駅から暫く国道に並走していた鉄路はもはや海岸に並ぶ幅も無く、緩やかに崖を切り上って踏切のやや手前で崖上に出る。

踏切を渡り、海を真後ろに進む。右に修道院、その先に巴湾、函館山。左は畑、さらに木古内の山々。正面に丸山が近づく。名前通りの稜線が左右に裾を伸ばし、おそらく太古の噴火跡であろう山腹中央の窪みも徐々に近づき、やあ、また帰ったか、と微笑む。振り返れば海峡の左に下北、右に津軽の半島。手前をフェリーが往く。

生地の西に沢が走り、その向うは木古内町釜谷。市町境は丸山の頂に至る。沢には橋も道も無く、幾度となく浮き石を踏み、遊んだ。雑木林が茂り、雪解けの春、柔らかな木漏れ日を浴びて白花片栗の群れが現れる。朝、起き脱けに片栗の茎葉を摘み味噌汁に供した。思い出せば今しも手が休む。



秋の丸山

「東京北斗会」 役員名簿

役 職	氏 名	出身小学校
会 長	佐藤 則道	谷 川
副 会 長	宮崎 里志	上 磯
副 会 長	池田 喜久雄	茂辺地
事務局長	宮崎 里志	上 磯
会計監査	簡 和弘	峯 朗
会 計	谷杉 栄策	浜 分
会 計	花木 瞳	沖 川
幹 事	武井 満野子	峯 朗
幹 事	長澤 久子	谷 川
幹 事	星川 傑	上 磯

役 職	氏 名	出身小学校
幹 事	池田 均	上 磯
幹 事	村元 誠	上 磯
幹 事	山田 道夫	石 別
事務局	松田 有司	上 磯
事務局	龍崎 千遙	石 別
事務局	外山 幸雄	上 磯
顧 問	池田 達雄	北斗市長
顧 問	郷内 繁	上 磯
相談役	佐藤 金也	茂辺地

「東京北斗会」 会則

1. 本会は「東京北斗会」と称し、事務所を会長宅（会長宅住所を記載）に置く。
 2. 本会は東京都及び近郊在住の北海道北斗市出身者並びに関係者等をもって組織する。
 3. 本会は会員相互の交流と親睦をはかり、併せて故郷の限りない発展に寄与する。
 4. 本会は前項の目的を達成するために次の事業を行う。
 - (1) 集会の開催 (2) 会報の発行
 - (3) 会員名簿の作成
 - (4) その他本会の目的達成に必要な行事
 5. 本会に次の役員を置く。

会長	1名	副会長	若干名
事務局長	1名	事務局	若干名
会計監査	1名	会計	2名
幹事	若干名		
 6. 会長及び副会長、会計監査は幹事会において選出し、総会の承認を得る。事務局長・事務局・会計並びに幹事は会長が委嘱する。
 7. 役員任期は2年とする。但し、再任は妨げない。
 8. 集会は次の5種とする。
 - (1) 総会 (2) 臨時総会 (3) 懇親会
 - (4) 役員会 (5) 幹事会
 9. 総会は毎年1回開催し、予算の審議並びに前年度の会務及び決算報告を行い、併せて重要事項を審議する。
 10. 本会の経費は会費及び寄付金をもって充てる。
 - (1) 年会費は一人2,000円とする。
 - (2) 夫婦会員及び同一住所に住んでいる「親子・兄弟姉妹」の会員は一人分を徴収する。
 11. 本会の会計年度は9月1日から8月31日迄とする。
 12. 本会に新規入会するものは、所定の申込書に必要事項を記載し会長の承認を得るものとする。
 13. 本会則は総会の決議により変更する事が出来る。
 14. 本会則は平成7年10月1日より実施する。
 15. 本会則は平成15年10月18日より改訂、実施する。
 16. 本会則は平成20年10月18日より改訂、実施する。
 17. 本会則は平成22年10月17日より改訂、実施する。
 18. 本会則は平成24年10月27日より改訂、実施する。
 19. 本会則は平成27年10月24日より改訂、実施する。
 20. 本会則は平成29年10月21日より改訂、実施する。
- 以上